

Y23a 市民とともに夜空の明るさ調査 ひらつか星空調査隊について

塚田健, 藤井大地 (平塚市博物館)

人工光の漏出は周囲の自然環境に様々な影響を及ぼし、それを光害(または光もれ害)という。影響の一つが、漏れ光が大気中の微粒子で拡散されて夜空が明るくなることであり、その程度を「夜空の明るさ」と呼んでいる。

平塚市博物館では環境庁(当時)が実施していた「全国星空継続観察(スターウォッチング・ネットワーク)」に開始当初から参加していたが、同調査は平成25年度に終了した。それを受けて当館では、市民が参加する形で広く市域全体の「夜空の明るさ」調査を行う目的に『ひらつか星空調査隊』を立ち上げた。当館ではこれまでも市民参加による市内の生物相調査などを行った実績があり(「みんなでしらべよう!」シリーズ)、本調査はその一環でもある。最初の調査は平成27年1月から2月にかけて行ない、その結果をまとめた。本発表では活動の概要と初年度の成果、そして今年度の現状と今後の展望を発表する。